1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201119		
法人名	社会福祉法人 高陽会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 風の里(東の家)		
所在地	和歌山県紀の川市粉河951-1		
自己評価作成日	令和2年2月18日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3071201119-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風の里は幹線道路に面した立地にあり、近隣には、駅や学校、警察署、消防署、寺社やスーパー等の生活拠点がたくさんあります。また地域との交流の場をできる限り多く作るように努め、地域の方々の協力を頂きながら様々な地域の催しに参加しています。ホームでは、利用者と一緒に地域に出かけ、地域との「縁」を繋げる生活を大切に、生活の中での個々の役割や出番を大切にケアに取り組んでいます。食生活においては買い物から調理まで職員が入居者と一緒に日々行っています。利用者の安心と安全に配慮しながら、個々の心身の状態や状況に応じて日常生活で役割を持ち、その人らしく暮らせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回は新型コロナウイルスの影響で、3密を防ぐため外出自粛や人との接触を防ぐこと、感染予防のための消毒等、これまで経験のない事態に備えて単独のグループホームではできにくい施設内の敷地を利用した散歩やお花見などを行ったり、広い玄関を利用して面会コーナーを作ること、感染予防を行いつつ、なるべくその人らしく暮らせるように工夫をして支援している。また、同じ敷地内にある訪問看護ステーションからの週3回の訪問や、スタッフの中に栄養士がいること、協力医療機関が12施設もある等、入居者の現状に応じた支援ができるように協力体制が整えられ、利用者の日常生活が守られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に年間の業務計画を立て、日々の実践に向け取り組んでいます。また、法人の理念を基にグループホーム独自の理念を作成し、理念に沿った援助が実施できるように事務所に掲示しています。	昨年、グループホーム独自の理念「いつまでも自分らしく生き生きと」を作成し、入居者から聞いた話をミーティング等で話し合い、入居者の状態に沿った支援を行うように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	各ボランティアの慰問、中学生の職場体験の受入れや市の文化祭等への参加を行うなどして地域との交流を図っています。また、近隣の商店のなかにはなじみの関係もなっているとあります。	同じ施設内にあるデイサービスに友人を訪ねたり、ボランティアも積極的に受け入れてきたが、新型コロナ感染予防のため、外部との接触を少なくするよう配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、老人会の勉強会、ボランティア等の受入れを積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催し、入居者の状況やケア内容、事業所の取り組み状況の報告、意見交換や情報収集を行っています。また参加者からの意見や要望、アドバイスを参考に事業所の運営に活かしています。	4月より運営推進会議の開催を見合わせているが、参加予定の区長、民生委員、家族代表、包括支援センター代表、市高齢介護課には、会議資料を送付して、ご意見を頂き運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室状況を伝えたり、不明な点や相談等があれば、直接訪問や面談し、報告・連絡・相談を実施するようにしています。	新型コロナウイルスの影響に伴い、報告・連絡・相談等は、電話での連絡や資料を送付することで積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアから身体拘束をしないケアについて職員間でミーティング時等に話し合う機会を設け、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。管理者が中心となり、身体拘束についての事業所内外の研修に参加しています。	ケアについて、従来は年2回外部研修に参加し、その内容を内部研修を開催して研鑽に努めていた。現在は、マスクで顔の表情が見えにくいこともあり、身振り手振りを大きくするようにして、利用者に話しかけるようにすることで、言葉や表情での制止につながらないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の実施や、外部研修への参加、日々のミーティング時の中で共有し、意識することで防止の実践に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については外部の研修で学ぶ機会を設け、利用者や家族において必要に応じて制度の説明を行い支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、事業所のケア方針や様々なリスクに関しても、利用者や家族等に理解、納得して頂くために十分な説明を行い、同意を得られるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から苦情や要望などがあつた場合、報告書やカルテに記入し、ミーティング等で話し合い運営に反映しています。相談などが行いやすいような雰囲気、環境づくりに努めています。また年1回のアンケート調査も行っており、意見や要望を運営に反映させています。	入居者のご家族には、毎月の支払の際に来所いただくため、広い玄関を活かした面会用のコーナーを設置し、入居者・職員が、ご家族と話し会えるようにしている。また、年1回のアンケート調査では、回答率は高く、いただいた意見を参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね2ヶ月に1回程度の定期的な個別面談を行い、個人の意見を聞き、相談しやすい雰囲気を心がけています。またスタッフ会議や日々のミーティングへの参加を行い、職員の意見を聞き、反映できるようにしています。	職員の意見をよく知りたいという目的で始めた2ヶ月に1回の面接で、さらに職場の風通しが良くなり、シフトの件や個人的な悩みまで相談しやすくなった。要望は、ミーティングでも出しやすく、物品購入等は皆と話し合せて予算と相談して購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面接を行い、自己評価や目標設定を行い把握することで、就業環境の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規配属職員には、本人の経験や能力に応じたOJTを行っています。また、入社時の基礎研修や、年6回の部署内の内部研修を行っています。その他、経験や本人の意欲に応じ、外部研修への参加をさせています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加や、地域ケア会議に参加し、交流する機会を確保しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談のあった時点でできるだけ速やかにご自宅での事前面談および施設見学を実施し、本人や家族の状況や状態把握に努め、信頼関係の構築を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に、事前面談時や入居までの期間に、本人や家族が困っていることや要望を聞き取り、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等により、入居時の聞き取りや相談の中で、その時に必要としているサービスの提供や紹介に努めています。またサービス提供が困難な場合には、法人内サービス等への相談や紹介を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「役割や出番を大切にされたケア」「受身ではなく自発的な行動が尊重されるケア」の理念の下、たとえば食事作りや後片付け、洗濯等の本人のできる事を利用者同士協力し合って、職員が支援しつつ行っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態やニーズの変化をご家族と相談し、状況に応じた支援の方法や方向性を検討しています。面会や状況に応じた受診・外出・外泊等で家族と職員が一緒に支えていく認識を持って頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食や散髪・受診等、馴染みの場所へ出かけることができるように努めています。親戚や友人等の訪問を勧めたり、会話に出てくる場所にでかけるようにしています。	事業所の近くの方が多くこともあり、いつもならデイサービスに行って友人と話すなど、積極的に会う機会を作っているが、現在は、新型コロナウイルス感染防止のため控えている。入居者のご家族とは、料金の支払いの際に玄関の面会コーナーで職員や入居者との話し合いを行うようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段からの生活の様子から、利用者同士の関係を観察しています。トラブルを予防すると共に、家事等を通じてお互いを支え合ってもらいます。また、同じ作業に参加する事で一体感を感じてもらいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等には、定期的に訪問を行ったり、家族と連絡とり、相談対応を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント以外にも、面会時に家族の要望を聞き取っています。また、普段の生活において本人の希望や意向を聞き取っている。それが難しい方については毎日のミーティングや月1回のスタッフ会議において本人本位に検討をしています。	現在コミュニケーションの取れにくい入居者も、コミュニケーションのとりやすい時期からいっしょにやる方が多いので、表情等で理解できることもあり助かることもある。雨で外出しにくい日が続くと、ストレスを抱えてしまう入居者も多くなるため、スタッフは、笑顔と大きな身振りで対応し、話をよく聴く機会を作るようにして、入居者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによる情報収集や、利用者、家族とのコミュニケーション、これまで利用されていたサービスに関係する他職種とのコミュニケーションの中で、本人の生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに担当者を定め、項目ごとに利用者の状態を記入した用紙を定期的に更新し、利用者の生活・状態・能力を把握しています。それを月1回のスタッフ会議などを通じ共有し、把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の話を傾聴したり、面会時に家族と話し合ったり、受診時に主治医の意見を聞いたうえで、月1回のスタッフ会議において各利用者の課題やケア方法について検討し、介護計画を作成している。	入居者の把握に努めたうえで、週3回の訪問看護師や主治医の意見はもとより、面会時の家族の意見や入居者それぞれの持病に合わせた食事療法も加えて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテには、日常生活の状況をできるかぎり細かく記入しミーティング等で、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や、変化するニーズを把握し、希望や要望に沿った柔軟な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるスーパーや美容院、診療所等を利用し地域交流に努めています。また積極的にホーム敷地外へ散歩やドライブに出かけ地域交流ができるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族と相談し、受診や通院の必要がある場合、本人や家族の希望に応じた受診を援助しています。必要に応じ、往診もしてもらっています。	入居時に家族と相談して決めている。ただ、協力医が多く、近くの総合病院も含まれているので、必要に応じかかりつけ医の紹介状を持って受診する場合もある。また、歯科医の往診が月1回あり、事業所内で治療も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと提携し、週3回訪問をしてもらっています。連絡ノートを使用したり、直接話をするなどして状態の報告や、アドバイスを受けています。必要に応じて、臨時的訪問もしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、定期的に訪問や病院関係者と連絡を取り、身体状態や状況の把握を行い、退院や退院後の受入れに向けての相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについての指針を作成し、契約時に、重度化した場合や終末期についての家族の意向や考えを聞きとっています。重度化・終末期の際には家族と状態を話し合い、主治医や訪問看護と連携してG/Hで看取りを行うこともあります。	契約時に重度化・看取りについて説明を行い、家族の意向を確認している。また、入居者の状態によって都度家族入居者との話し合いを持ち、主治医、訪問看護との連携で看取りを行っている。現在もスタッフ共々チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や外部研修への参加で知識を得て、緊急時に対応できるように努めています。また緊急時には主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難の基準や順路を定めた防災マニュアルを基に、年2回消防訓練を実施しています。また、行政や消防署等に協力をお願いしています。	事業所の道向かいに消防署があることで、安心感は強いが、それだけでなく、年2回の昼夜想定避難訓練には地域の消防団や市の危機対策課にも参加して協力していただいている。また、災害時備蓄として3日間の水と食料を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護や、プライバシー保護の内部研修を実施しています。特に、入浴や排泄時には羞恥心やプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めています。	個人情報などはすべてスタッフルームに収納され、プライバシー保護に努めている。入居者は基本的に名字にさん付けで呼ばれており、事業所内は入居者とスタッフの話し声も静かで、一人ひとりに配慮した言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者の話を傾聴し、日常生活の中で、利用者の希望を聞き入れたり、できる限り自己決定できるように心がけた声掛けや援助を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、利用者のペースを大切に、本人の能力や、したい事、したくない事等に応じた対応をし、利用者の希望に沿った援助に努めています。その日の本人の状況や希望等によって外出したり、屋内でゆったり過ごして頂くなど、状況判断を常に行い、暮らしをサポートしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、衣服の選択をしてもらったり化粧、行きつけの美容室を利用してもらったりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理や盛り付け、後片付け等の様々な場面で利用者の能力に応じて参加をしていただいています。利用者の好みに応じたメニューを考案し、状態や個人の好みに合わせて個別に変更をしています。	新型コロナウイルス感染防止のため、買い物は職員で行っている。しかし、敷地内で育てているミニトマト、ナス、スイカ等の収穫作業は、作業が可能な入居者全員で行い、食卓に並べるようにしている。また、スタッフの中に栄養士がいることで、誕生日に入居者の希望のメニューを取り入れたり、おやつは栄養を考えて皆で手作りする楽しみも味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量や水分摂取量のチェックおよび摂食時の様子を観察・記録しています。体重測定の結果に応じて食事量を変えています。可能な限り自力摂取できるよう援助し、難しいときは食事介助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、口腔ケアの声掛けや援助を行っています。また磨き残しが無いか確認し、清潔保持に努めています。週1回、義歯洗浄剤での洗浄を施行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導や、援助を行っています。またミーティング等で、利用者の排泄の自立に向けた支援を相談しています。	排泄チェック表の活用や、入居者の状態に合わせたさりげない支援を行うようにしている。入居時に比べると重度化が避けられない状態の方もいるが、入院時おむつ着用になった方には、リハビリパンツになるようにスタッフで協議し、出来る限り自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便の状況を把握しています。便秘気味や下痢気味の方などには食事のメニューなどで配慮しています。便秘が続く時は必要に応じ医療職と相談し、下剤などを使用して頂くときもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の利用者の、その日の希望や体調に合わせて入浴援助を行っています。また入浴拒否がある方にも、声掛けのタイミングや時間帯、職員を交代したり等、工夫し対応しています。	入浴拒否をされる方もいるので、同性介護にしたり、安全を確かめながらも、おひとりでお入浴されているように気遣ったり、声掛けの人を交代するなどして、入居者に気持ちよく入浴していただくよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の生活習慣を把握し、環境整備を行い、個人の生活リズムや習慣、体調に合わせた休息の支援を行っています。また就寝時にも室温の調整や寝具の調整等を行い、安眠に配慮した支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院への受診後はミーティングにて受診内容を報告し、職員間で共有しています。また薬の説明を個別にカルテに管理し、副作用や、効能について理解し、病状の変化の確認や観察を行っています。病状の変化がある場合、主治医に指示を頂き対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の希望や要望に沿った支援を行っています。日々の食材の買い物や、散歩、嗜好品の買い物を行っています。また、外食等の企画や、季節に応じた行事も実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物への参加を促し、外出支援に努めています。それ以外にも、美容院や受診などを通じて外出していただいたり、季節に応じた企画を立案し、家族にも案内したりしています。	時期的に事業所のある施設内の敷地での散歩やお花見を楽しんでいる。7月に入ってから隣の中学校への広い道沿いに登下校時を避けて散歩するなど、限られた距離ではあるが、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方にはお金を所持して頂き、外食や買い物時に使用して頂いています。自己管理できない方には、ホームで立替え支払いし、ご家族には、毎月のご利用料金の請求時に、明細と領収書にて報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や固定電話の使用は自由に行って頂いています。また年賀状や暑中見舞い等の手紙を職員と一緒に作成し、投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる生け花や、掲示物をリビングや玄関ホールに用意しています。リビングには、ゆったりと過ごして頂けるように、ソファや椅子、コタツ等を設置しています。	緑に囲まれた広い玄関を活かして、面会空間を作り、その場で知人・家族の訪問を楽しめるよう配慮されている。また、リビング・ダイニングも入居者の居場所を確保しつつ、レイアウトを工夫し密を避ける工夫がなされている。	利用者の安心・安全の確保のため様々工夫されているが、手すり等の配置について、更なる工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング、リビング、テラスにソファやベンチ・テーブルを設置し、家族等との面談や個人が自由に過ごせるような共用スペースにしています。ひとりになりたい時は居室で自由に過ごしていただけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、今までの使い慣れた馴染みのある家具類等を持って来て頂けるよう説明し、持参して頂いています。	家族の写真や仏壇が置かれている居室は、一畳の押入れがあるためかすっきりしている。それぞれの居室は、中から施錠される方や、転倒のリスクの高い方には夜間のみセンサーを付けるなど対応に配慮しつつ、入居者が居心地よく過ごせるように工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じて、移動や家事、入浴等の様々な生活動作が快適に行えるような環境づくりに努めています。		